

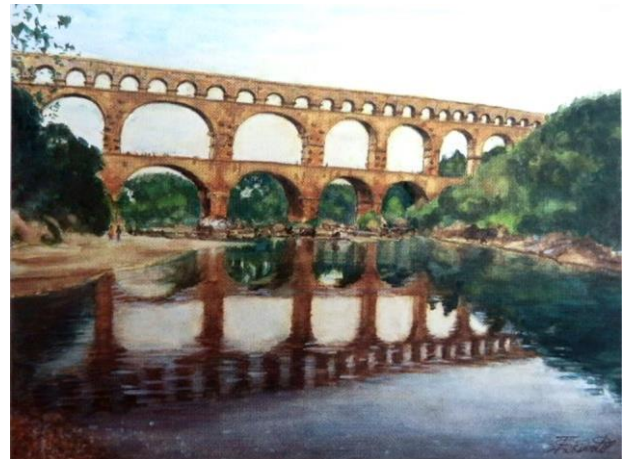
学長のコラム

オープンキャンパスで学んだこと

今年のオープンキャンパスの参加者は、7月度 777 名、8 月度 997 名、合計 1774 名であり、熊本地震前の H27 年の参加者数を越え、盛況であった。これも、教職員の皆様の日ごろからの努力の賜物で、深く感謝いたします。当日は、小生も例によって、いろいろ見せていただきましたが、3 号館で看護の先生方から興味ある話をいただき、学んだことを報告します。

近年増えてきている男性の看護学科志望者から、「この大学は男性の枠は何人ですか？」との質問があったとのことである。他大学では、母性看護実習の受け入れ先が確保できないなどの理由で男子学生受け入れに制限を設けているところもあるからではないか？とのコメントもいただいた。「えー、ウチはどうしているの？」と言葉を返すと、「何か調整しているのではないですか？詳しくは知りませんが・・・」との言葉が返って来たので、「えー、そんなこと、聞いていないよ！」と、事務室に戻り、今村（入試）広報課長にお聞きすると、「入試では一切制限はしていない、結果として、母性の実習がなんとか受け入れ可能な人数に落ち着いている」との話を聞いて安堵。その後、関係の先生方にメールでお聞きしたら、本学では、平成 21 年に 21 名の男子学生が入学し、受け入れていただける実習先の確保が非常に困難だったことを機に、平成 23 年に、学科や入試委員会で議論され、男子学生の入学者数に制限を設けないことを決めて、現在に至るとの話を学びました。関連して、少し、ネットで調べてみると、過去には、指定規則で、男子学生の母性看護実習は精神科実習や成人看護実習に置き換え可であり、そうする学校がほとんどであったが、1989 年の指定規則改正で、男女の区別のない母性看護実習を求めているとのことである。

男子看護学生が母性看護を学ぶ意義については、看護師としての役割だけでなく男性として、父親としてなど、それぞれの立場で修得した技術を活用し支援を必要とする人々に活用できるという意義があるとの調査論文もあることを知り、「産科病棟に配属されることは無いのに、母性看護実習が男子学生にも必要なの？」という安直な疑問も解消する。実習をする男子学生の側の戸惑い、実習を受けていただける妊産婦さん側のご理解の問題は、すぐには解決しない時間のかかる問題ではあるが、結論としては、病院・クリニックと妊産婦やご家族の理解を得て、実習可能な施設をできるだけ多く確保することが必要であるということになる。



8 月・9 月・10 月の主な行事予定

| | |
|----------|--|
| 8/27(日) | チャレンジ熊本大！推薦入試対策講座 |
| 9/1(金) | 情報セキュリティ研修会 13:00-14:30 |
| 9/6(水) | 職員旅行(柳川・日田方面)(~7日)*幹事・看護学科 |
| 9/8(金) | 大邱保健大学交換研修生 7 名派遣 (~21 日) コンケン大学交換研修生 4 名派遣 (~21 日) |
| 9/20(水) | 学校法人銀杏学園 理事会 |
| 9/22(金) | 認定看護師教育課程 認知症看護分野修了式 |
| 9/25(月) | 後期ガイダンス |
| 9/26(火) | 後期授業開始・レストラン開始 |
| 9/29(金) | 臨時教授会(学籍異動関係) |
| 9/30(土) | 保護者会(MT3 年・PT2 年・OT3 年・ST2 年)13:00~ |
| 10/2(月) | 認定看護師教育課程 脳卒中リハビリテーション看護入学式 |
| 10/18(水) | 動物慰霊祭 |
| 10/21(土) | 学園祭(第 4 1 回杏祭) |
| 10/31(火) | 医学検査学科 臨地実習認定式 |



※1 号館玄関前に一斉に咲いた向日葵
H29. 7. 23 撮影 企画課

平成 29 年度 助産別科臨地実習適格認定書授与式

8 月 4 日に助産別科臨地実習適格認定書授与式を行い、21 名全員に認定書を授与いたしました。8 月 21 日から 12 月 1 日までの助産学地域母子保健実習にあたり、それぞれの想いを胸に秘めながら、皆で宣誓いたしました。最後に、「私たちは、全員で助産学実習を終えることのできるよう、仲間と共に助け合い、励まし合っていきます。」と、声高らかに唱和していました。学生が、これから、いろいろな場面で、立ち止まり、悩み、喜び、楽しみなどの経験を通して、より人間力を高める学習ができることを期待しております。

(文責：助産別科長 堅野 真紀子)



第2回保健科学 (MT, NS, PT, OT, ST) 国際シンポジウム in 2017

本学において、7月10-11日に第2回保健科学 (MT, NS, PT, OT, ST) 国際シンポジウム in 2017 を開催しました。海外からは、提携校である Daegu Health College (DHC: 韓国)、Khon Kaen University (KKU: タイ) と Centro Escolar University (CEU: フィリピン) を中心に専門家 27 名が参加されました。また、九州内の大学・専門学校・実習施設等の方々にもお越しいただき、学内の教職員、学生も含めて総勢 600 名が聴講しました。

崎元達郎学長による開会挨拶の後、午前の部は、皮膚科医の小野友道前学長が“Tattoo に対する日本人の眼差し: On Tatoo (Irezumi), Japanese View of Tattoo in the International Society” と題した特別講演を開催しました。日本における入れ墨文化の歴史的背景から現代における若者のファッションとしての入れ墨までご紹介され、海外の参加者のみならず私達日本人にも興味深い内容でした。また、4カ国(日本・韓国・タイ・フィリピン)の医療事情や各大学の現状等の報告や紹介がありました。

午後は、分科会スタイルで実施し、臨床検査領域 9 題、看護領域 9 題、リハ領域 (PT&OT 10 題、ST 5 題) の口述発表がありました。専門領域の分科会は、今回初めての試みであった為、演題が集まるかどうか、また、円滑に運営できるかどうか心配でしたが、最終的には多数の演題が集まり、活発な意見交換ができました。

翌日は、熊本城見学、熊本機能病院視察に加えて、懇親会に本学から約 50 名の教職員が参加したことで、積極的な交流ができ、海外の先生方が満足して帰国されたことをご報告致します。

教職員の一致団結の下、本シンポジウムを大盛會に終えることができました。(文責: 国際シンポジウム準備委員長 山元総勝)

ピア・サポーター&プチ・サポーター養成講座開催

7月9日(日)第16回養成講座を開催し、プチ・サポーター 44 名、ピア・サポーター 45 名が参加しました。プチ・サポーターは初めての養成講座ということで、「ピア・サポーターとしての基本知識・姿勢」「傾聴の基本姿勢」などを学びました。また、オープンキャンパスにおける支援活動を想定したロールプレイや当日の企画についても意見交換を行いました。熱心に取り組む参加者の姿には、サポーターとしての自覚と意気込みが感じられました。(文責: 学務課)



金色有功章を頂きました!

先日、熊本県において「第53回献血運動推進全国大会」が開催され、本学に「金色有功章」が授与されました。この表彰は、20年以上継続的に献血に協力のあった団体、あるいは献血の推進活動に功労のあった団体に対して感謝の意を表して贈呈されるものです。年2回の学内献血では、教職員の方々にもご協力いただき、ありがとうございます。献血者数が増えるようにと、学生たちが広報活動等を頑張っていますので、次回も是非ご協力をお願いします!(文責: 学務課)



大邱保健大学交換研修

7月1日(土)~14日(金)にかけて、大邱保健大学交換研修生7名を本学において受入れました。MERSの流行や熊本地震の影響により、大邱保健大学との交換研修生の相互派遣は2年ぶりとなります。施設見学、講義聴講、日本語研修、文化体験、ホームステイ等様々な体験をしてもらいました。その間本学から派遣する予定の交換研修生以外にもハングルクラブの学生や教職員等多くの方々に協力してもらい、幅広く交流を深めることができました。

(文責: 国際交流委員会)



私の秘話ヒストリー

今回は看護学科の太田 光紀 助教に投稿していただきました。

学生時代はトライアスロンもしていて運動習慣があったが、大学院への進学や転職なども重なり運動不足の毎日に。健診の度にじわじわと増え続ける体重と血中脂質に焦りを感じていた頃、ハーフマラソン大会への誘いがあった。このままメタボ突入は困ると、勢いで申し込んだものの、案の定ろくな練習もしないまま大会当日を迎えてしまった。

「まあ、途中から歩いてでも帰って来ればいいのか」なんて思ってスタートしたら、10km過ぎから膝周りがチクチクと痛みだし、嫌な予感が。走ったり歩いたり、騙し騙しゴールまで辿り着き、帰りに温泉に入ったものの治るわけもなく…

後日、整形外科を受診したところ鷲足炎と診断され、1ヶ月程の通院が必要でした。昔取った杵柄とはいかず、やはり急な運動は危ないものだと思いを以て学んだ、ある秋の出来事でした。しかし、それ以来、少しずつ慎重に(?)有酸素運動を再開でき、そのきっかけを与えてくれた方々には感謝しています。